

# もりぐちぶらり歩きマップ

このガイドマップは、市民の皆さんが守口の歴史や文化に親しみ、愛着をもっていただきたいと考え、作成しました。守口市は昭和 21 年に守口町と三郷町が合併し、その後、昭和 32 年に旧庭窪町と合併し、現在の形となりました。

市内に点在する史跡や文化財、施設は、古代から現在まで守口市がどのような歴史をたどっていったのかを学ぶことができます。このマップには、市民の皆さんが気軽に歩いて、見ていただけるよういくつかのコースを設けました。これらを参考に守口市の歴史や文化財を身近に感じてみてはいかがでしょうか。

## 〈パートⅡ 土居・高瀬・大枝・橋波周辺の史跡散策コース〉

### A コース(三郷周辺を歩くコース)(約 3,2 km)

京阪電鉄「西三荘駅」⇒ 7分 ⇒天乃神社⇒ 10分 ⇒唯称寺⇒ 10分 ⇒存覚上人旧跡(光明寺)⇒ 10分 ⇒式内 高瀬神社⇒ 1分 ⇒高瀬川跡⇒ 3分 ⇒常称寺⇒ 8分 ⇒京阪電鉄「土居駅」

### B コース(土居商店街から高瀬周辺を歩くコース)(約 2,3 km)

京阪電鉄「土居駅」⇒ 3分 ⇒清沢寺⇒ 3分 ⇒守居神社⇒ 1分 ⇒土居商店街(北側)⇒ 3分 ⇒京阪電鉄「土居駅」⇒ 1分 ⇒土居駅前通商店街(駅南側)⇒ 5分 ⇒式内 高瀬神社⇒ 1分 ⇒高瀬川跡⇒ 3分 ⇒常称寺⇒ 13分 ⇒滝井小学校⇒ 4分 ⇒京阪電鉄「滝井駅」

### C コース(一日ゆっくりコース)(約 3,5 km)

京阪電鉄「西三荘駅」⇒ 7分 ⇒天乃神社⇒ 15分 ⇒唯称寺⇒ 10分 ⇒存覚上人旧跡(光明寺)⇒ 10分 ⇒式内 高瀬神社⇒ 1分 ⇒高瀬川跡⇒ 3分 ⇒常称寺⇒ 15分 ⇒京阪電鉄「土居駅」

(※時間・距離はおおよその目安です。なお、見学の時間は含んでおりません。)

## 《コース内の史跡等のご案内》

### ① 式内 高瀬神社

この神社は、延喜式内社として津嶋部神社と並んで守口市内屈指の古社です。天正年間(1573~1592)



に織田・三好の兵火で社殿は焼かれたもののその後再建され、江戸時代中期頃に建てられたのが現在の社殿です。江戸時代には、神殿その他がすべて備わった大社で、八幡宮とも呼ばれていました。

### ② 守居神社

社記には延喜 18 年(918)の創建と伝えられ、祭神は、素戔鳴尊(牛頭天王または三輪明神・日吉権現・新羅明神)・別雷命と記されています。当社には、昭和 56 年(1981)に大阪府有形文化財に指定された「備中守橘康廣」の銘がある刀や、宝永 7 年(1710)の銘を持つ瓦製狛犬が奉納されており、現時点で府下陶磁・瓦製の狛犬としては最古のもので、平成 12 年(2000)に市の有形文化財に指定しました。

### ③ 清沢寺

真宗本願寺派の末寺で、蓮如上人の第10男第23子息の実悟上人が永禄年間の初め（1588～）に当地方を教化中に当寺の荒廃を聞き、これを再興して土居坊と称し、その後、上人の姓「清沢」を採って清沢寺と改称されました。



当寺の宝物の中には、実悟上人の肖像画が目の密な上質の絹に描かれており、絵絹の描法からして江戸時代の初期頃の作品かと推定され、守口市にゆかりの深い高僧の肖像画として、貴重な資料です。

### ④ 滝井小学校

大正12年（1923）に初めは守口尋常小学校の分教場として創設され、昭和21年（1946）の市制施行の翌年に現在の校名となりました。昭和9年（1934）の室戸台風により、全校舎が倒壊し、当時の文部大臣が視察に訪れました。市内でも古い建築様式を残す校舎であり、階段の代わりにスロープが設けられた点が特筆すべきものです。（※入場はできません）

### ⑤ 高瀬川跡

高瀬川は古歌にもうたわれ、平安時代には「高瀬の淀」、江戸時代には「守口川」とも呼ばれていました。



この高瀬川には、僧行基が架けたとされる橋があり、その橋の遺物と考えられる橋杭の石柱が出土したことから、相当大きな川で、かつては淀川の本流であったと伝えられています。

### ⑥ 常称寺

現在、知恩院の末寺ですが、昔は高瀬山華嚴院常称寺と称し、華嚴院高瀬寺の奥院と伝えられています。



この寺には二巻の縁起を蔵し、一つは常称寺の縁起、もう一つは寺に伝わる舎利の由緒について記録されています。共に奥書から元和4年（1618）のものとわかり、江戸時代初期の作品として貴重なものです。

### ⑦ 存覚上人旧跡（光明寺）

存覚上人は、本願寺三世覚如上人の長男で、観応元年（1350）に当地方を教化したとき、廃寺同様になっていた当寺を再興し、ここを起点として教えを広めました。

この光明寺は当地方で最古の浄土真宗寺院といわれています。

### ⑧ 唯称寺

東本願寺大谷派のお寺で、市内の真宗寺院では、最も早く木仏の本尊を安置した寺の一つといわれています。



当初は、藁葺の屋根で外観が民家と変わらない集会所的な建物でしたが恵明上人の時代（19世紀中頃）に上位の真宗寺院内陣正面の構えを取り入れ、真宗の本堂としての形に整えられました。

この本堂は、18世紀後半頃の新しい建築になるものとはいえ、農民に密着した村道場の古い形態を残した貴重な建物です。

### ⑨ 天乃神社

祭神は素戔鳴尊・菅田別尊・菅原道真公であり、江戸時代には天神社・天神宮と呼ばれていました。



寛文10年（1670）に当地方を領有していた竹内門主親王によって、祭神である菅原道真公の木像を授けられ、社殿を改築したといわれています。

現在の本殿に安置されている旧本殿は、柿葺の一間社春日造で向拝に藁股2箇を並べた類例のない形式を持つなど江戸時代初期を下らない特徴をもつ貴重な建物です。



# 土居・高瀬・大枝・橋波周辺史跡マップ



③清沢寺 実悟上人画像

②守居神社

③清沢寺

④滝井小学校

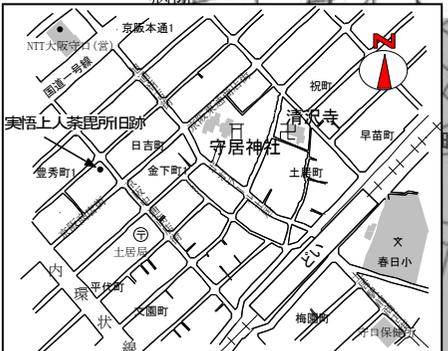
①式内 高瀬神社

⑤高瀬川跡

⑥常称寺

⑨天乃神社 本殿

⑥常称寺 紙本墨書常称寺縁起



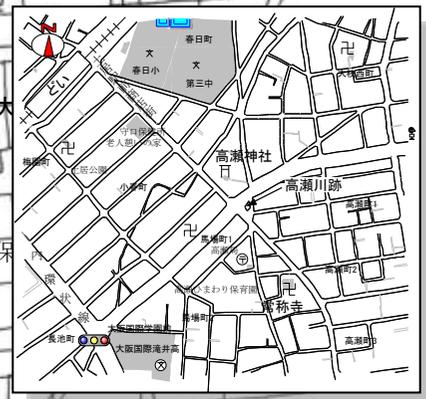
土居駅前周辺詳細図



②守居神社



②大阪府指定有形文化財 守居神社 刀



高瀬神社周辺詳細図

※ 掲載している文化財等は、民家や社寺の都合で見学できない所もあります。ご注意ください。